

# H31年度制御工学特論

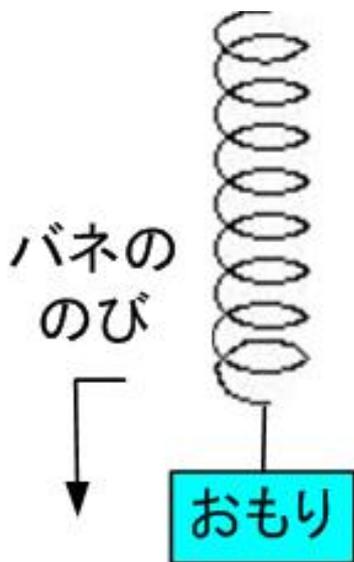
## 第4回講義

# 今日の講義予定

1. 前回の演習問題の結果
2. 非線形制御系の例
3. 平衡点の安定, 不安定
4. 線形系の安定性
5. 非線形系の安定性, リヤプノフの安定定理
6. 線形系のリヤプノフの定理
7. 線形系の例題
8. 誤差2乗面積の計算

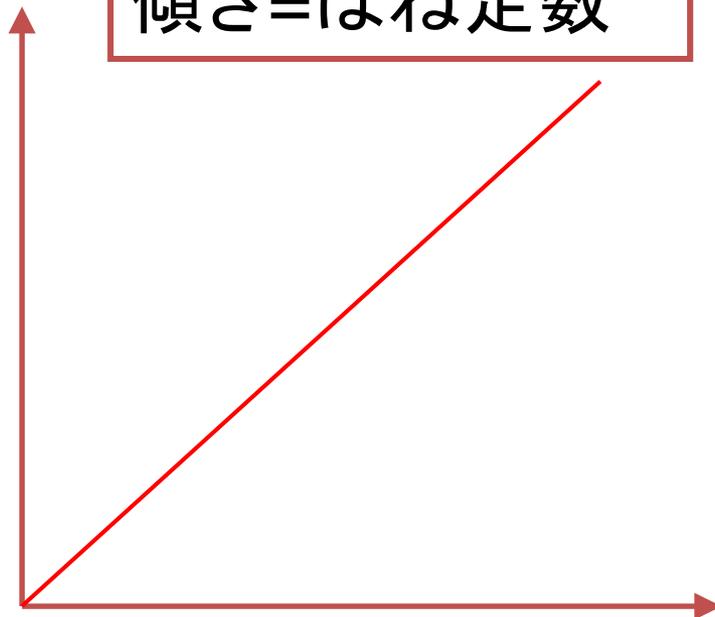
# 線形性の例

おもりの重さと  
ばねの伸び



ばねの伸び

傾き=ばね定数



おもりの重さ

線形：反応(ばねの伸び)→加えた力に比例

先生

学生

# 線形でないー非線形

勉強しろ

知らん顔

生徒の勉強

1回目



勉強する

勉強しろ

知らん顔

2回目

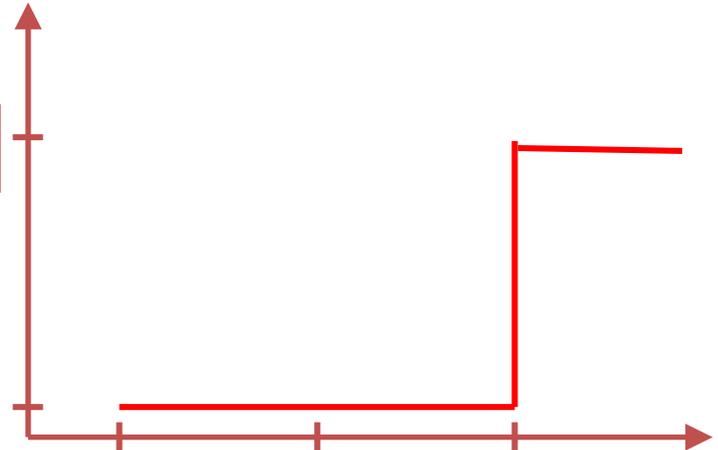


知らん顔

勉強しろ

勉強する

3回目



1  
回  
目

2  
回  
目

3  
回  
目

先生からの注意

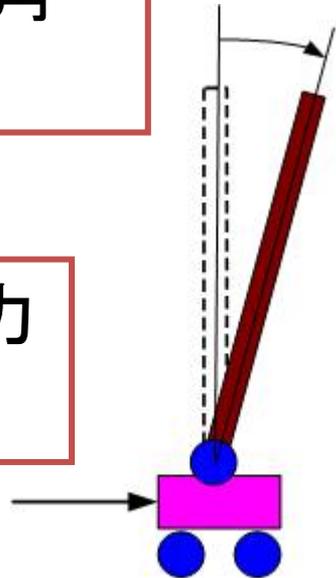
非線形: 反応 → 加えた力に比例しない

# どのようにして不安定系を安定系にするか

目標の角  
度 $\theta_0=0$

現在の角度 $\theta$

加える力  
(入力)



誤差 $\theta-\theta_0$  大きい



大きい力を加える

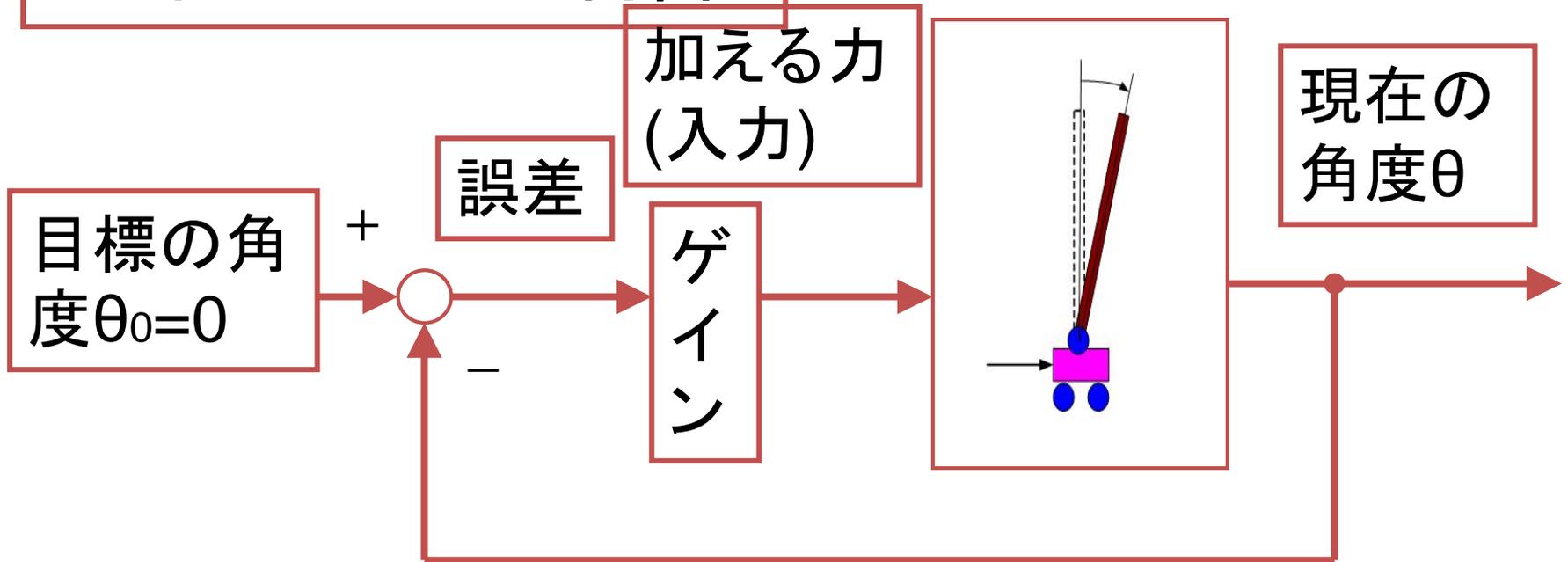
誤差 $\theta-\theta_0$  小さい



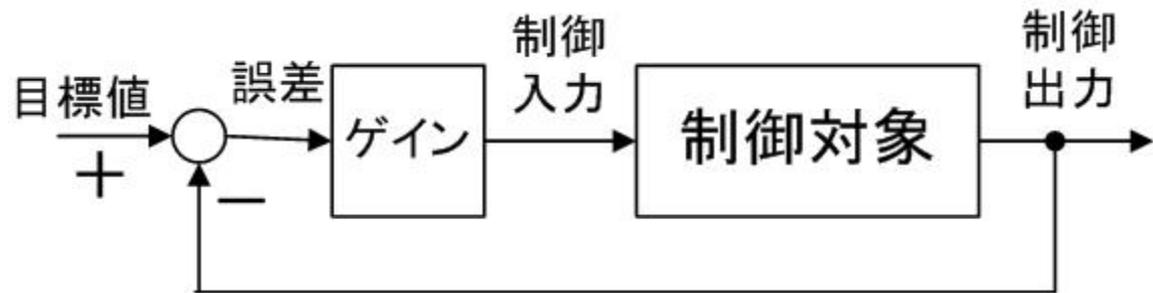
小さい力を加える

誤差が0になるまで、繰り返す

# フィードバック制御



## ブロック線図



# フィードバック制御が成功する条件

誤差 $\theta - \theta_0$  大きい



大きい力を加える

誤差 $\theta - \theta_0$  小さい



小さい力を加える

誤差が0になるまで、繰り返す

大きい力を加える



力の効果が大きい

小さい力を加える



力の効果が小さい

効果が力に比例する

=

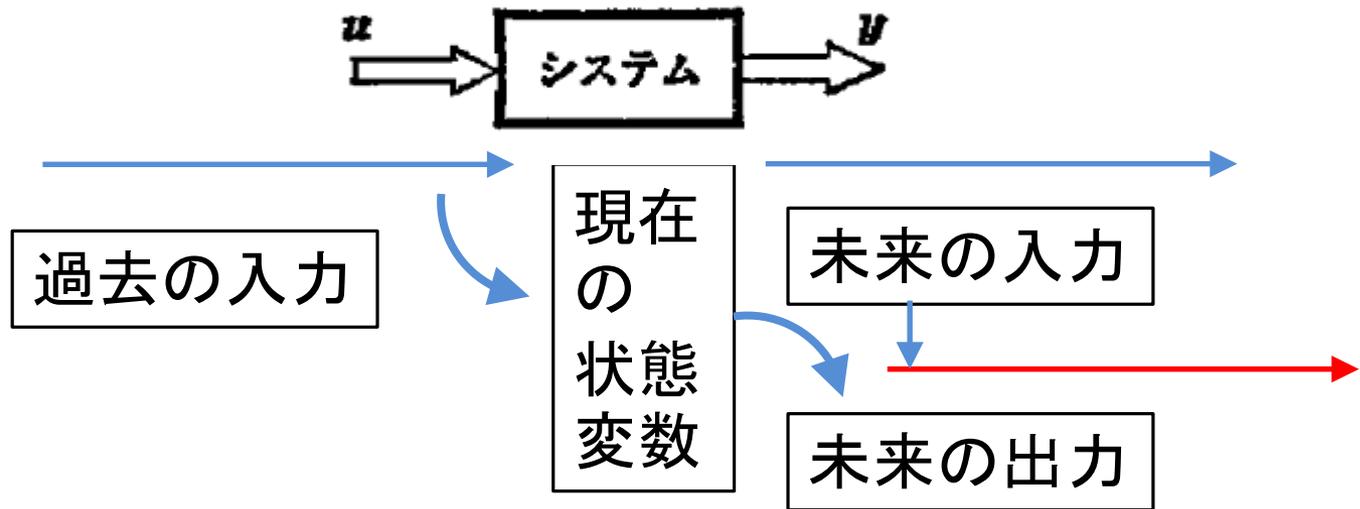
線形性

線形が制御のもとになっている  
非線形だと、制御が難しい

# 状態変数とは

過去の入力をまとめて表す。

未来の出力が、現在の状態変数と、未来の入力で決まる。



## 線形系の状態方程式

状態方程式  $\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t) + Bu(t)$

出力方程式  $y(t) = Cx(t)$

## 非線形系の状態方程式

状態方程式  $\frac{dx(t)}{dt} = f(x(t), u(t))$

出力方程式  $y(t) = h(x(t), u(t))$



# 非線形系の例：3自由度多関節ロボット

$$R(\theta)\ddot{\theta} + \dot{R}(\theta)\dot{\theta} - \frac{\partial}{\partial \theta} \left\{ \frac{1}{2} \dot{\theta}^T R(\theta) \dot{\theta} \right\} + \frac{\partial U}{\partial \theta} = \tau$$

$$K = \frac{1}{2} \dot{\theta}^T R(\theta) \dot{\theta}, \quad R(\theta) = \begin{bmatrix} r_{11} & 0 & 0 \\ 0 & r_{22} & r_{23} \\ 0 & r_{23} & r_{33} \end{bmatrix}$$

$$U = m_2 s_2 g \sin \theta_2 + m_3 l_2 g \sin \theta_2 + m_3 s_3 g \sin(\theta_2 + \theta_3)$$

$$r_{11} = I_{1y} + m_2 s_2^2 \cos^2 \theta_2 + I_{2x} \sin^2 \theta_2 + I_{2y} \cos^2 \theta_2 \\ + m_3 \{ l_2 \cos \theta_2 + s_3 \cos(\theta_2 + \theta_3) \}^2 \\ + I_{3x} \sin^2(\theta_2 + \theta_3) + I_{3y} \cos^2(\theta_2 + \theta_3)$$

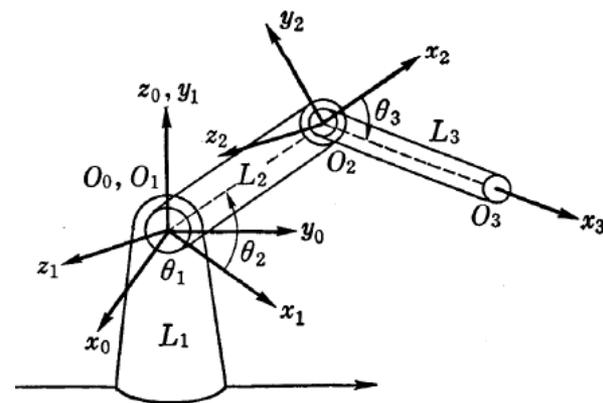
$$r_{22}(\theta) = I_{2z} + m_2 s_2^2 + I_{3z} + m_3 s_3^2 + m_3 l_2^2 + 2m_3 s_3 l_2 \cos \theta_3$$

$$r_{23}(\theta) = I_{3z} + m_3 s_3^2 + m_3 s_3 l_2 \cos \theta_3$$

$$r_{33}(\theta) = I_{3z} + m_3 s_3^2$$

$$\frac{\partial U}{\partial \theta} = \left[ \frac{\partial U}{\partial \theta_1}, \frac{\partial U}{\partial \theta_2}, \frac{\partial U}{\partial \theta_3} \right]^T$$

$$\theta = \begin{bmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \\ \theta_3 \end{bmatrix}$$



状態変数

$$x = \begin{bmatrix} \theta_1 \\ \dot{\theta}_1 \\ \theta_2 \\ \dot{\theta}_2 \\ \theta_3 \\ \dot{\theta}_3 \end{bmatrix}$$

入力：モータートルク

$$\tau = (\tau_1, \tau_2, \tau_3)^T$$

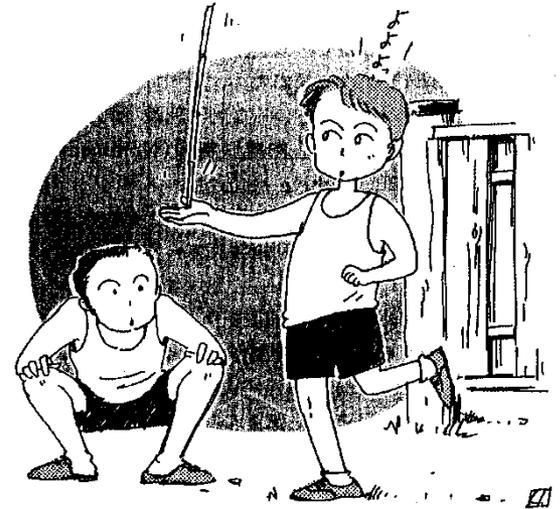
状態方程式

$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t))$$

# 平衡点の不安定、漸近安定

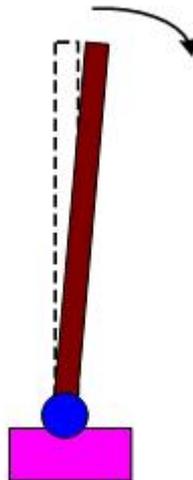
平衡点：状態方程式の $u(t)=0$ のとき

$$\left. \frac{dx(t)}{dt} \right|_{x=x_0} = f(x_0, 0) = 0 \quad \text{となる} x_0$$



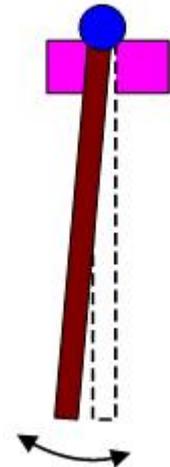
不安定な  
平衡点

ほっておくと  
元の状態から大きく動く



漸近安定  
な平衡点

ほっておい  
ても元の状  
態へ戻る



# 平衡点の安定性の定義

教科書p80

教科書p124平衡点 $x_0$ について

安定 $\Leftrightarrow$ 平衡点近くの初期値で出発し、状態変数 $x$ 有限

漸近安定 $\Leftrightarrow$ 平衡点近くの初期値で出発し、

$t \rightarrow \infty$ のとき状態変数 $x \rightarrow 0$

前期の講義の「安定」=この講義の「漸近安定」

大域漸近安定 $\Leftrightarrow$ 全ての初期値で出発し、

$t \rightarrow \infty$ のとき状態変数 $x \rightarrow 0$

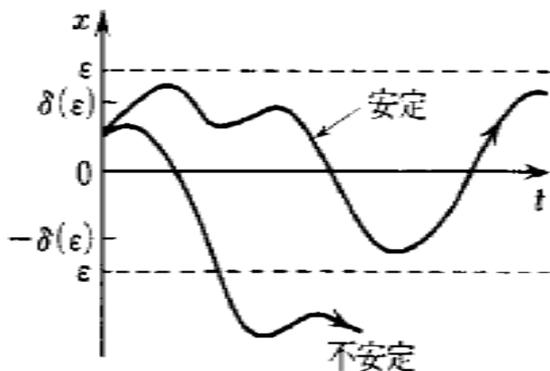


図 5.4 安定性の定義

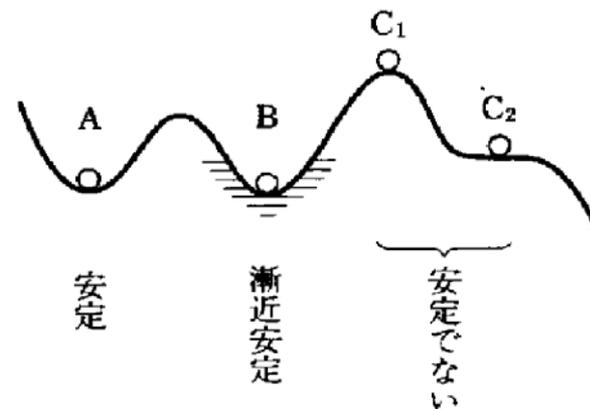
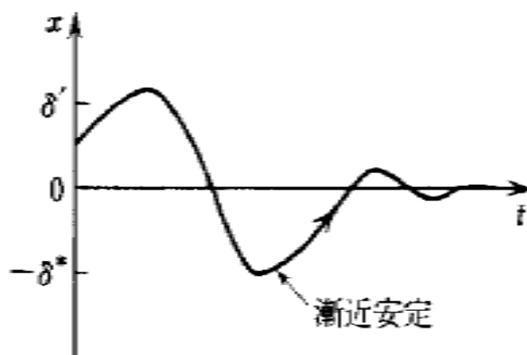


図 5.5 平衡点の安定性

# 線形系の安定性

線形系の状態方程式

状態方程式

$$\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t) + Bu(t)$$

安定  $\Leftrightarrow$  行列Aの全ての固有値の実数部  $\leq 0$

漸近安定  $\Leftrightarrow$  行列Aの全ての固有値の実数部  $< 0$

不安定  $\Leftrightarrow$  行列Aの固有値が1つでも実数部  $> 0$

線形系の  $u(t)=0$  のとき  $\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t)$  解  $x(t) = e^{At} x_0$

遷移行列  $e^{At}$  = 行列Aの固有値  $\lambda_i$  の指数関数  $e^{\lambda_i t}$  の組み合わせ

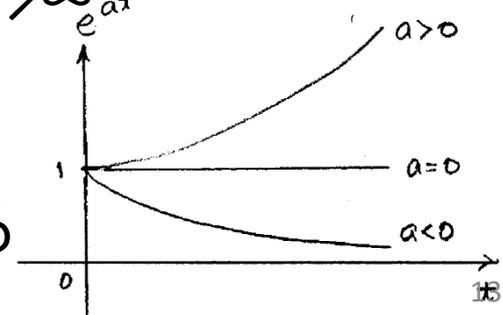
指数関数 指数部の実部 正負で  $\rightarrow 0$ 、または、 $\rightarrow \infty$

固有値が複素数のとき  $\lambda_i = \alpha_i + i\beta_i$

実数部  $\alpha_i$ 、虚数部  $\beta_i$  に分けて

$$e^{\lambda_i t} = e^{\alpha_i t} (\cos \beta_i + i \sin \beta_i)$$

振動的になる



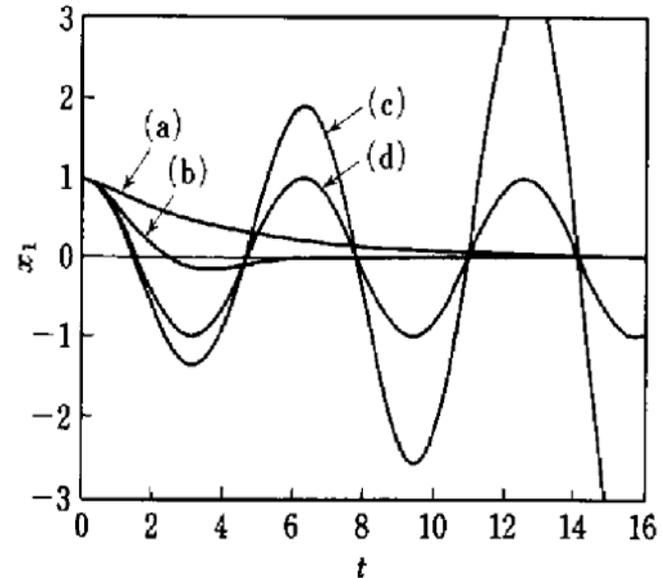
# 線形系の安定性: 例

例

$$\dot{x} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2\zeta \end{bmatrix} x + \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} u$$
$$y = [1 \ 0] x$$

平衡点:  $u=0$  のとき

初期値  $x_1 = 1.0$ 、 $x_2 = 0.0$



- (a): 実数部=-0.5 : 漸近安定
- (b): 実数部=-2: 漸近安定
- (c): 実数部=0.1: 複素根、不安定
- (d): 実数部=0: 複素根、安定

# 非線形系の安定性

非線形系：状態方程式  $\frac{dx(t)}{dt} = f(x(t), u(t))$  固有値は計算できない。

安定性を判定する唯一の方法：リアプノフ法

【リアプノフの安定定理】  $x$  を状態ベクトルとし、系を

$$\dot{x} = f(x) \quad (9.84)$$

のように表すとき、この系は次の五つの条件を満足し、連続な一階偏導関数をもつ連続な実数値スカラ関数  $V(x)$  が存在するならば、大域漸近安定である。

(L1)  $V(0) = 0$

(L2)  $x \neq 0$  のとき  $V(x) > 0$ 、すなわち  $V(x)$  は正定値である。

(L3)  $\|x\| \rightarrow \infty$  のとき  $V(x) \rightarrow \infty$

(L4) 解軌道にそった時間微分  $\dot{V}(x) \leq 0$ 、すなわち  $\dot{V}(x)$  は準負定値である。

(L5)  $x \neq 0$  の解軌道上で  $\dot{V}(x)$  は恒等的に 0 ではない。

以上の条件を満たす関数  $V(x)$  をリアプノフ関数という。

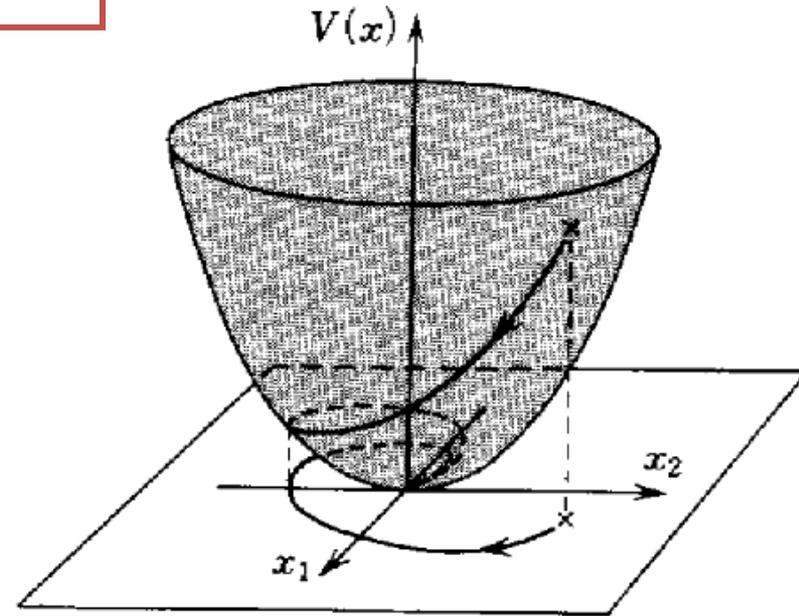
ここで、
$$\frac{dV(t)}{dt} = \frac{dV(x(t))}{dt} = \frac{dV(x)}{dx} \frac{dx}{dt} = \frac{dV(x)}{dx} f(x(t))$$

# 非線形系の安定性

リャプノフ関数  $V(x(t)) > 0$  正定値  
解に沿って傾き  $\dot{V}(x(t)) \leq 0$   
解に沿って動くと、やがて  $V(x(t)) \rightarrow 0$   
すなわち、 $x(t) \rightarrow 0$

ここでは、線形系に適用する  
非線形系 → 教科書11章p193

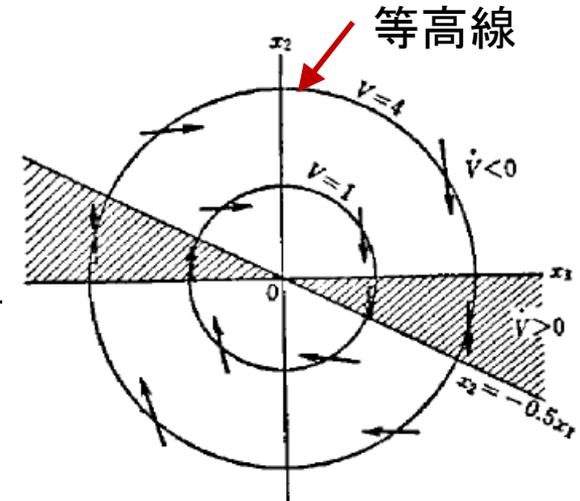
リャプノフ関数の存在 ⇒ 安定  
(安定であるための十分条件)  
1つでもリャプノフ関数があれば安定  
リャプノフ関数がなくても、  
不安定とは限らない



# 線形系の例題

例題:

$$\dot{x} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -2 & -2 \end{bmatrix} x$$



(1)  $V(x) = x_1^2 + x_2^2 = [x_1 \ x_2] \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$  正定値

$$\dot{V}(x) = 2x_1\dot{x}_1 + 2x_2\dot{x}_2$$

$$= 2x_1x_2 + 2x_2(-2x_1 - 2x_2)$$

$$= -2x_2(x_1 + 2x_2)$$

右図、斜線部分で  $\dot{V}(x(t)) > 0$   
 $\Rightarrow$  安定かどうか不明

(2)  $V(x) = x_1^2 + x_2^2 + x_1x_2 = [x_1 \ x_2] \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$  正定値

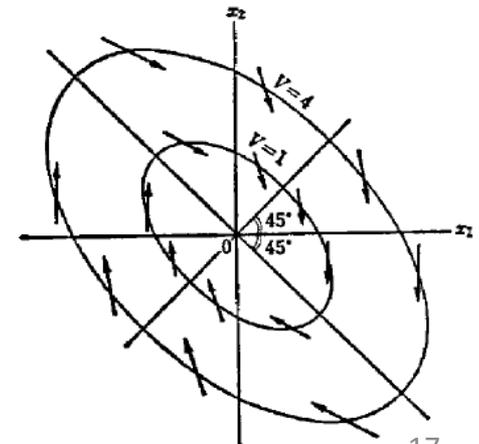
$$\dot{V}(x) = 2x_1\dot{x}_1 + 2x_2\dot{x}_2 + \dot{x}_1x_2 + x_1\dot{x}_2$$

$$= -2x_1^2 - 4x_1x_2 - 3x_2^2$$

$$= -[x_1 \ x_2] \begin{bmatrix} 2 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \leq 0$$

( $x=0$  のときのみ  $\dot{V}(x) = 0$ )

右図、全ての部分で  
 $\dot{V}(x(t)) \leq 0$   
 $\Rightarrow$  安定



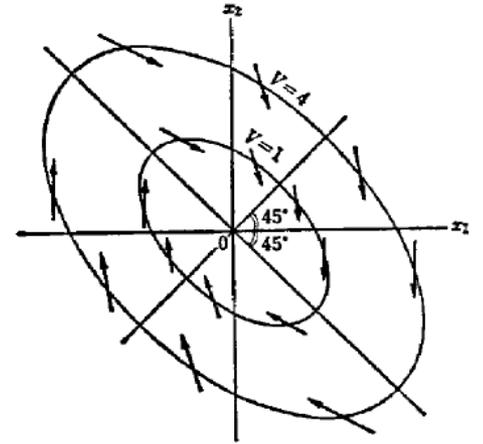
# 線形系の例題

$$(2) V(\mathbf{x}) = x_1^2 + x_2^2 + x_1x_2 = \begin{bmatrix} x_1 & x_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

正定値であることの証明

(a)固有値を計算 $\rightarrow \lambda=3/2, 1 > 0$

(b)完全平方の形にする



# 線形系のリャプノフの定理

教科書p77

線形系  $\dot{x}(t) = Ax(t)$  の  $x(0) = 0$  漸近安定

⇔どのような正定値行列 $Q$ に対して、

リャプノフの方程式  $A^T P + PA = -Q$

を満たす正定値行列 $P$ が存在すること。

このとき  $V(x) = x^T P x$  リャプノフ関数になっている

$$\dot{V}(x) = \dot{x}^T P x + x^T P \dot{x} = (Ax)^T P x + x^T P (Ax)$$

$$= x^T A^T P x + x^T P A x = x^T (A^T P + P A) x$$

$$= -x^T Q x \leq 0$$

# 線形系の例題

例題

$$\dot{x} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -2 & -2 \end{bmatrix} x$$

のリアプノフ関数を求める

正定値行列  $Q=I$  とする。

Pとして  $P = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix}$  とおき、 $p_{11}, p_{12}, p_{22}$  を未知数とする

Pは対称行列とできるので、(2.1)成分も $p_{12}$ とおける  
リアプノフの方程式  $A^T P + PA = -Q$  に代入

$$\begin{bmatrix} 0 & -2 \\ 1 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -2 & -2 \end{bmatrix} = - \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \quad (2) \text{式}$$

$p_{11}, p_{12}, p_{22}$  をもとめ、 $p_{11}=5/4, p_{12}=1/4, p_{22}=3/8$

$$P = \begin{bmatrix} 5/4 & 1/4 \\ 1/4 & 3/8 \end{bmatrix} = \frac{1}{8} \begin{bmatrix} 10 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix} \quad (3) \text{式}$$

$$V(x) = \frac{1}{8} [x_1 \ x_2] \begin{bmatrix} 10 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \frac{1}{8} (10x_1^2 + 4x_1x_2 + 3x_2^2) \quad (4) \text{式}$$

# 演習問題(1): ヒント

例題:

正定値行列  $Q=I$  とする。

$P$ として  $P = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix}$  とおき、 $p_{11}, p_{12}, p_{22}$  を未知数とする

リャプノフの方程式  $A^T P + P A = -Q$  に代入

$$\begin{bmatrix} 0 & -2 \\ 1 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -2 & -2 \end{bmatrix} = - \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$$

(2)式

(1.1)成分の式:  $-2 p_{12} - 2 p_{12} = -1$

(1.2)成分の式:  $-2 p_{22} + p_{11} - 2 p_{12} = 0 \leftarrow$  (2.1)成分の式と同じ

(2.2)成分の式:  $p_{12} - 2 p_{22} + p_{12} - 2 p_{22} = -1$

これを解いて,  $p_{11} = 5/4, p_{12} = 1/4, p_{22} = 3/8$

$$P = \begin{bmatrix} 5/4 & 1/4 \\ 1/4 & 3/8 \end{bmatrix} = \frac{1}{8} \begin{bmatrix} 10 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$$

(3)式

が求まる.

## 演習問題(2):ヒント

例題

リャプノフ関数

$$V(\mathbf{x}) = \frac{1}{8} [x_1 \ x_2] \begin{bmatrix} 10 & 2 \\ 2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \frac{1}{8} (10x_1^2 + 4x_1x_2 + 3x_2^2)$$

を微分して,

$$\dot{V}(\mathbf{x}) = \frac{1}{8} (10 \times 2\dot{x}_1x_1 + 4\dot{x}_1x_2 + 4x_1\dot{x}_2 + 3 \times 2x_2\dot{x}_2)$$

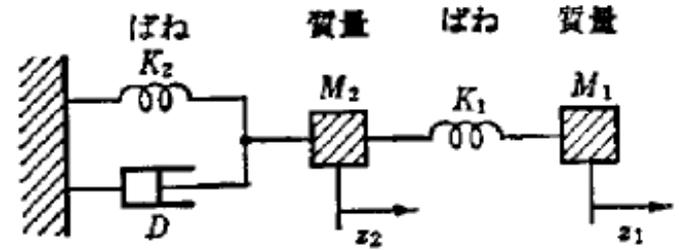
(4) 式

状態方程式より,  $\dot{x}_1 = x_2, \dot{x}_2 = -2x_1 - 2x_2$  を代入して,

$\dot{V}(\mathbf{x}) \leq 0$  となることを確かめる.

# 線形系の例題 宿題(2)

例題：  
右の力学系の安定性を調べる



質量  $M_1, M_2$  の変位  $x_1, x_2$

運動方程式  $M_1 \ddot{z}_1 = -K_1(z_1 - z_2)$

$M_2 \ddot{z}_2 = K_1(z_1 - z_2) - K_2 z_2 - D \dot{z}_2$

状態変数  $z_1 = x_1, \dot{z}_1 = \dot{x}_1 = x_2, z_2 = x_3, \dot{z}_2 = \dot{x}_3 = x_4$

状態方程式

$\dot{x}_1 = x_2$

$\dot{x}_2 = -\frac{K_1}{M_1} x_1 + \frac{K_1}{M_1} x_3$

$\dot{x}_3 = x_4$

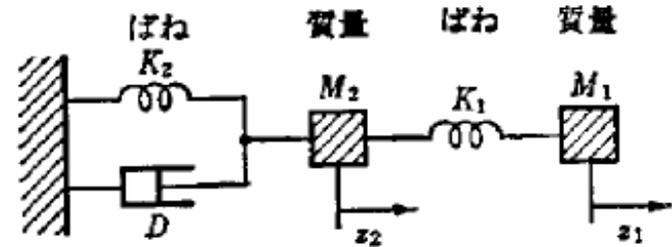
$\dot{x}_4 = \frac{K_1}{M_2} x_1 - \frac{K_1 + K_2}{M_2} x_3 - \frac{D}{M_2} x_4$

$$A^T P + P A = -Q$$

# 線形系の例題

リャプノフ関数

= 力学系の全エネルギー  
= 質量の運動エネルギー  
+ ばねの位置エネルギー



$$V(\mathbf{x}) = \frac{1}{2}M_1x_2^2 + \frac{1}{2}M_2x_4^2 + \frac{1}{2}K_1(x_1 - x_3)^2 + \frac{1}{2}K_2x_3^2 \quad \text{正定値}$$

$$\begin{aligned} \dot{V}(\mathbf{x}) &= M_1x_2\dot{x}_2 + M_2x_4\dot{x}_4 + K_1(x_1 - x_3)(\dot{x}_1 - \dot{x}_3) + K_2x_3\dot{x}_3 \\ &= -Dx_4^2 \leq 0 \end{aligned}$$

よって、安定

## 宿題(2): ヒント

例題:

リャプノフ関数の微分

$$\dot{V}(\mathbf{x}) = M_1 x_2 \dot{x}_2 + M_2 x_4 \dot{x}_4 + K_1 (x_1 - x_3) (\dot{x}_1 - \dot{x}_3) + K_2 x_3 \dot{x}_3$$

に状態方程式の  $\dot{x}_1 = x_2$  を代入して

$$\dot{x}_2 = -\frac{K_1}{M_1} x_1 + \frac{K_1}{M_1} x_3$$

$$\dot{x}_3 = x_4$$

$$\dot{x}_4 = \frac{K_1}{M_2} x_1 - \frac{K_1 + K_2}{M_2} x_3 - \frac{D}{M_2} x_4$$

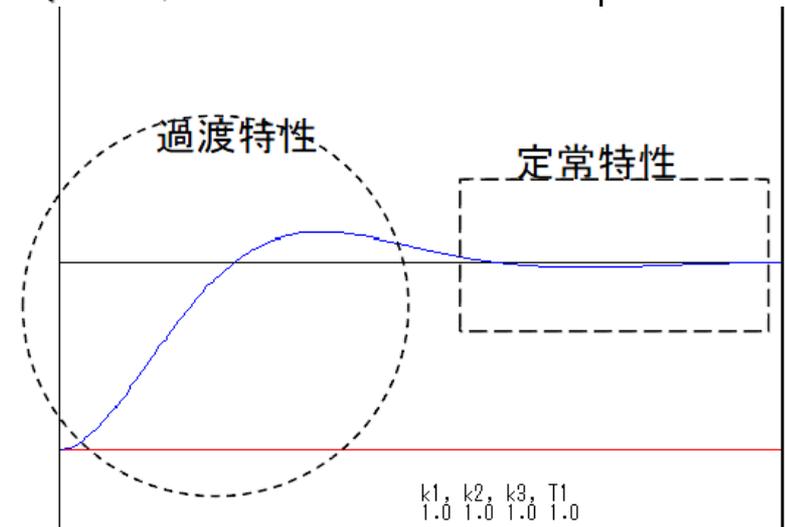
$\dot{V}(\mathbf{x}) = -Dx_4^2 \leq 0$  を確かめる.

# 状態方程式の利点

1. 多入力、多出力系を表すことができる
2. 安定性判定が固有値計算で出来る。
3. 過渡応答の計算が指数関数で出来る。
4. 可制御、可観測が定義できる。
5. 最適レギュレータが設計できる→誤差2乗面積:最小

$$J = \int_0^{\infty} (\mathbf{x}^T \mathbf{C}^T \mathbf{C} \mathbf{x} + \mathbf{u}^T \mathbf{W}^T \mathbf{W} \mathbf{u}) dt$$

(12.18)



誤差2乗面積

整定時間

# 誤差2乗面積の計算

線形系  $\dot{x} = Ax$  出力  $y = Cx$  について、

誤差2乗面積  $J = \int_0^{\infty} y^T y dt = \int_0^{\infty} y_1^2 + y_2^2 + \dots + y_m^2 dt$

を計算する

微分すると  $\dot{V}(x) = -x^T (C^T C) x$  となるリャプノフ関数  $V(x) = x^T P x$  を求める。この  $P$  はリャプノフ方程式

$$A^T P + P A = -C^T C$$

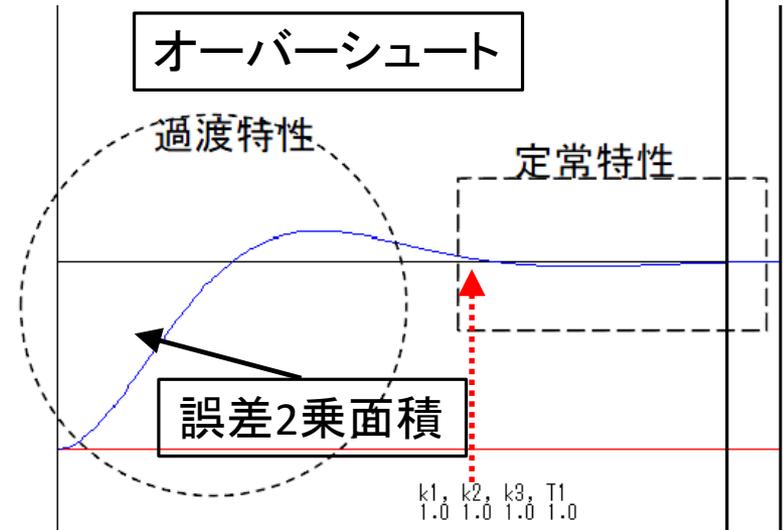
このとき、誤差2乗面積は

$$J = \int_0^{\infty} (y_1^2 + y_2^2 + \dots + y_m^2) dt = \int_0^{\infty} y^T y dt = \int_0^{\infty} (Cx)^T (Cx) dt$$

$$= \int_0^{\infty} x^T C^T C x dt = - \int_0^{\infty} \dot{V}(x) dt$$

$$= - [V(x(t))]_0^{\infty} = V(x(0)) = x^T(0) P x(0) \quad (9.)$$

より、  $J = x^T(0) P x(0)$  で計算される。

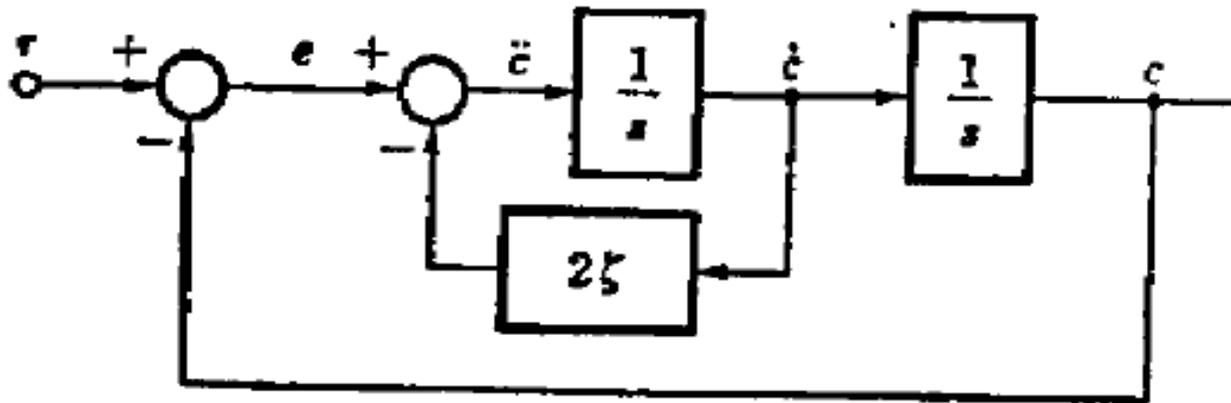


# 線形系の例題

## 例題10

左の制御系にステップ入力 $r(t)$ が入るときの誤差2乗面積を計算する

$$J = \int_0^{\infty} e^2 dt$$



# 線形系の例題

状態変数  $e = x_1$ ,  $\dot{e} = \dot{x}_1 = x_2$  とおくと(状態変数に誤差を選んでいる)

状態方程式 
$$\begin{bmatrix} \dot{x}_1 \\ \dot{x}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2\zeta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$$
 出力方程式 
$$e = x_1 = Cx = \begin{bmatrix} 1 & 0 \end{bmatrix} x$$

よって、 $J = \int_0^{\infty} e^2 dt = \int_0^{\infty} x^T C^T C x dt$ 、 $C^T C = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$  で、リヤプノフ方程式は

$$\begin{bmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -2\zeta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{12} & p_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2\zeta \end{bmatrix} = - \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$$

これを解いて、

$$P = \begin{bmatrix} \left(\zeta + \frac{1}{4\zeta}\right) & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & \frac{1}{4\zeta} \end{bmatrix}$$

よって、誤差2乗面積は

$$J = \begin{bmatrix} x_1(0) & x_2(0) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \left(\zeta + \frac{1}{4\zeta}\right) & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & \frac{1}{4\zeta} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1(0) \\ x_2(0) \end{bmatrix}$$

$$= \left(\zeta + \frac{1}{4\zeta}\right) x_1^2(0) + x_1(0) x_2(0) + \frac{1}{4\zeta} x_2^2(0)$$

# 線形系の例題

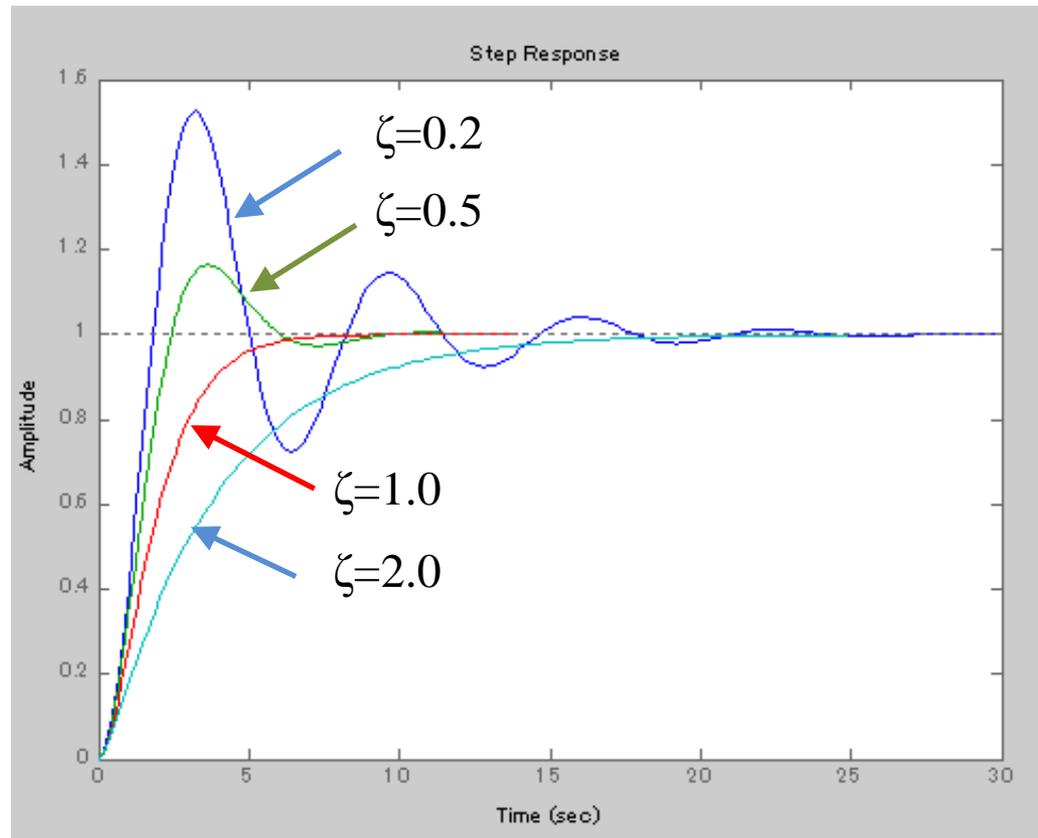
初期状態  $\dot{c}(0) = 0, c(0) = 0$ 、ステップ入力するとき、

$$J = \left( \zeta + \frac{1}{4\zeta} \right) x_1^2(0) + x_1(0) x_2(0) + \frac{1}{4\zeta} x_2^2(0)$$

に  $x_1(0) = e(0) = 1, x_2(0) = 0$  を代入して

$$J = \zeta + \frac{1}{4\zeta}$$

$\zeta=0.5$  の時、誤差が最小



# 線形系の例題

例題:

ブロック線図より  $C = \frac{1}{s} \frac{1}{s} (E - 2\zeta s C), E = R - C$

よって  $C = \frac{1}{s^2 + 2\zeta s + 1} R$

微分方程式に直して  $\ddot{c} + 2\zeta\dot{c} + c = r \quad e = c - r$

ステップ入力より  $\dot{r} = 0, \ddot{r} = 0$  を用いて,

$e$ の微分方程式として  $\ddot{e} = -2\zeta\dot{e} - e$

状態変数として  $x_1 = e, x_2 = \dot{e}$  とおくと,

$\dot{x}_1 = x_2, \dot{x}_2 = -2\zeta x_2 - x_1$  となり,

ベクトル形式の状態方程式(1)が求まる.

$$\begin{bmatrix} \dot{x}_1 \\ \dot{x}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -1 & -2\zeta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \quad e = x_1 = Cx = \begin{bmatrix} 1 & 0 \end{bmatrix} x$$